平成30年度

栗山町

教育行政執行方針

平成30年第1回栗山町議会定例会で、南條宏教育長が教育行政執行方針を示しましたのでその内容をお知らせします。

今日、高度情報化社会の到来やグローバル化の急速な進展により、社会が日々大きく変化する中、子どもたちに「確かな学力、豊かな心、健やかな体」をバランスよく育む教育の実現と、すべての町民の皆さんが生涯に渡って学び、地域社会の中で心豊かに生きがいのある人生を送るための環境づくりが重要となっております。

本町においては、栗山に生まれ、栗山で学び、栗山で生活することに誇りと自信を持つ子どもたちの育成に力を注ぐため、地域の資源を活かした教育活動を展開するとともに、子どもたちの実態に応じた教育の提供や「ふるさと教育」の実践を通して郷土を愛し、人を思いやる心の育成、さらには少年団活動や部活動をはじめとした各種スポーツ活動の奨励・支援を通しての運動習慣の定着など、知・徳・体のバランスのとれた教育を実施するとともに、町民の皆さんが生涯に渡って学び続け、健康・体力づくりに親しむ場や機会の提供に取り組んでおります。

本町の教育推進においては、昨年度に引き続き教育委員会が行うすべての活動を通して、「ふるさと教育」を実践することとし、学校教育では次期学習指導要領の要である「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点から、子どもたちが身に付けるべき資質・能力を育て、社会教育では、町民の皆さんの自発的な学習活動や健康・体力づくりを支援する環境の整備、活力あるコミュニティ形成への貢献に努めることが大切であります。

そのため本年度は、「豊かな学びで共に育ち合い、未来を切り拓く栗山の教育」をテーマに掲げ、町民の皆さんが主体的な意欲を持ち、「ふるさと栗山」の豊かな自然環境の中で、充実した人生を送ってほしいとの願いを込めて教育行政を執行する考えであります。

以下、具体的な推進方策に関わり、学校教育と社会教育、自然体験教育、北海道介護福祉学校の4分野に分けて、15の重点方針を申し上げます。

第1分野　社会とのかかわりを図り、栗っ子の未来を切り拓く学校教育

学校は、今を生き抜く子どもたちにとって現実の社会とのかかわりの中で、毎日の生活を築き上げていく大切な場であるとともに、社会に巣立っていくための準備段階としての場でもあることから、未来への自己実現を願い成長しようとしている子どもたちの学びに向かう意欲を高め、一人ひとりの心身の調和のとれた発達を支援することが求められております。

そのため、特に重視することを4点申し上げます。

❶小・中9年間を見通した社会に開かれた教育課程の編成

平成32年度は小学校で、平成33年度は中学校で完全実施となる学習指導要領の改訂を受け、平成30年度から小学校は2カ年、中学校は3カ年の移行期間を設定し、新学習指導要領へのスムーズな移行に努めてまいります。

特に、小学校においては、3年生からの外国語活動に加え、5年生からは教科としての外国語が実施されることから、子どもの学びに応じた教育課程を編成し、内容の充実に努めてまいります。

また、栗山独自のキャリア教育を推進し、「ふるさと栗山」の地域資源を活用した中で、栗山をより深く学び、その中から将来を見据えて考えることができ、自信をもって表現できる子どもたちを育ててまいります。

さらに、本格実施3年目を迎える「コミュニティ・スクール」につきましては、保護者や地域住民と連携し、地域とともにある学校づくりを進めてまいります。

❷確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育活動

栗山の子どもたちが社会で自立するために必要な基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得した中で、課題をどのように捉え、いかに行動していくべきかを考える力を育むとともに、特別支援教育支援員を増員し、子どもたち一人ひとりの実態に応じた指導を行うことで、確かな学力を身に付けてまいります。

また、「特別な教科　道徳」を要とした学校の教育活動全体を通して、心情理解をした上での発信力、道徳的実践力を身に付けるとともに、学校図書室や図書館司書を活用した子どもたちの読書活動などの充実を図り、読書を通じて豊かな感性や創造性を育んでまいります。

さらに、健やかな体づくりにつきましては、日常生活における運動離れが課題となっておりますが、学校における体育科の充実や少年団活動、部活動を通じて、運動習慣の定着に取り組むとともに、学校給食においては、地産地消、食育指導を進め、食への理解、生活習慣につなげてまいります。

町内3小学校で夏・冬休み学習会を実施

❸教員の学び合いを基調とした教員研修

子どもの学力向上を図るためは、教職員の授業力を高めることが不可欠であります。そのため、指導・助言を行う専門職員を継続配置し、学校や教育振興会など、あらゆる機会において教職員が学び合う環境づくりに努め、子どもたちの学力向上を目指した授業力の向上に努めてまいります。

また、学びの機会を通じて、教職員が子ども一人ひとりの状況を的確に把握した中で、確かな専門性を発揮し、強い情熱と総合的な人間力を兼ね揃えた、質の高い授業づくり・教育活動を展開してまいります。

❹教育活動を保証する教育環境整備

子どもたちの学習の意欲の向上に極めて有効であるICT機器を含め、子どもたちの学びの環境づくりを進めるため、各教科の教材などの充実を図るとともに、学校の施設設備を計画的に整備してまいります。

また、保護者の負担軽減策である就学援助制度につきましては、平成29年度より新入学児童生徒学用品費の支給月の見直しを実施しておりますが、今後、より早い時期での支給について検討してまいります。

さらに、給食センターにつきましては、引き続き安全・安心を徹底した運営を行うとともに、将来展望に立ち、より効率的・効果的な運営方法について検討してまいります。

第2分野
町民の学習活動を支援し夢を与える社会教育

人々の生活を充実させ地域に活力をもたらす上で、文化や芸術、スポーツ活動の果たす役割はますます大きくなってきており、社会教育においては、人々の主体的な学習活動を支える地域環境の整備が強く求められております。

そのため、特に重視することを6点申し上げます。

1 学ぶ意欲を高める生涯学習の推進

町民の皆さんが心に潤いを持ち、この町で暮らすことに誇りと自信を持ちながら有意義な生活を実現するため、幼年期から高齢期まですべての年代において、興味や関心を持っていただける学習機会の提供が重要であります。

そのため、趣味や教養などを高める講座として「町民講座」を継続するほか、くりやま生涯学習塾や栗山地区女性学級、いきいきスクールなどを積極的に支援し、その充実を図ってまいります。

2 学びを支える図書館機能の充実

町民ニーズを把握した図書の充実を図り、町民の読書習慣づくりを進めるため、我が家の読書ポスター展、ビブリオバトルなどの実施に加え、新たに就学前の保護者向けに絵本リストを作成し、さらなる「家読（うちどく）」事業の普及に取り組んでまいります。

また、学校、教育委員会、図書館の協働による読書チームを中心に、学校での読書活動を拡大するとともに、「ミニくりプロジェクト」と併せて、学校図書室を専門に担当する司書が中心となり、学習活動を支援し、図書室が子どもたちの「心の居場所」となる環境づくりを進めてまいります。

さらに、郷土資料の充実を図るため、町民の皆さんからの資料提供について広く情報発信を行うとともに、資料を適切に整理・保存していくため、既存組織の識者の方と連携を強化してまいります。

思わず読みたくなるような本の紹介を行う「ビブリオバトル」を実施（図書館）

3 健康を支えるスポーツの振興

町民一人ひとりが、スポーツを通して心身ともに健康に過ごすことができるよう、いつでも気軽にスポーツに取り組むことができる機会の提供と施設の整備が重要であります。

そのため、スポーツ推進委員との連携を図ったスポーツ事業を開催するほか、体育協会やスポーツ少年団への支援を継続し、町民の皆さんがより多くのスポーツに触れる機会を増やしてまいります。

また、町内の体育施設の計画的な整備を進めてまいります。

4 歴史的建造物の保存及び文化振興活動への環境づくり

小林酒造の倉庫群をはじめとした町内の歴史的建造物の保存と有効活用を図るため、有識者を含めた歴史的建造物保存・活用検討会議を中心に、その保存・活用を検討してまいります。

また、栗山町開基100年記念事業として設置された「ふるさと史跡案内板」は、30年の年月を経て痛みが激しいことから、新たな案内板を設置しその周知を図るとともに、ふるさとの歴史を知る「史跡めぐり」事業を実施してまいります。

さらに、文化振興基金の今後の在り方や活用について検討するため、町内の有識者で構成する（仮称）栗山町文化振興基金運営委員会を設置してまいります。

5 地域で子どもを育む環境づくり

子どもたちが、地域のリーダーとして、また、栗山の将来を担う社会人として、自ら積極的に地域社会に参加できる資質を育むため、地域の皆さんとともに青少年の育成の強化を図っていくことが重要であります。

そのために、青少年育成会やさまざまな団体とも積極的に連携を図りながら、スポーツや文化活動をはじめ、本町の特色ある地域活動に触れるくりやまキッズクラブやリーダー育成活動事業を推進してまいります。

6 子どもたちの視野を広げる国際・地域間交流の推進

近年のグローバル化の進展は目覚ましいものがあり、時代の変化に対応できる「世界に通用する栗っ子」を育むため、早い時期からの海外体験などを通して、世界の文化や芸術、風習などの理解を深める「少年ジェット希望の翼」派遣事業を継続してまいります。

また、本年は、本町の開拓130年、姉妹都市の角田市が市制施行60周年の節目（ふしめ）の年であります。両市町の歴史や文化などの理解を深め、将来にわたってさらなる交流を図るため、姉妹都市子ども交歓の集い事業や勤労青年国内研修事業を継続してまいります。

第3分野
郷土の素晴らしさを体験する自然体験教育

本町では、昭和60年に御大師山で国蝶オオムラサキの生息が確認されて以来、熱意ある町民が協働し、30年以上にわたって栗山の豊かな自然環境を守り続けてきました。

栗山の子どもたちが、豊かな自然環境の下で、「ふるさと栗山」に愛着や誇りを持ち、心豊かにたくましく成長することが大切であります。

そのため、特に重視することを2点申し上げます。

オオムラサキの飼育を毎年実施（角田小学校・継立小学校）

1 栗山の自然フィールドを活かした自然体験教育の推進

平成22年にスタートしたふるさと自然体験教育は、雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスを拠点に、ハサンベツ地区・ファーブルの森・夕張川など身近な自然環境を活用した活動として受け継がれております。

今後も各学校が栗山の魅力を知る学習活動に活用できるよう各教科の学習内容を研究し、ふるさと自然体験教育プログラムの一層の充実を図ってまいります。

また、御大師山の麓にありますふれあいプラザにオオムラサキの観察飼育舎を機能統合し、国蝶オオムラサキを、より多くの方に見ていただく拠点施設として整備してまいります。

さらに、ファーブルの森につきましては、多様な生態系が存在しており、また、天皇・皇后両陛下が行幸啓された地でもあることなど、本町の豊かな自然環境を楽しむ憩いの場としての整備を検討してまいります。

2 町民参加による自然環境の保全・再生活動への支援

ハサンベツ里山20年計画事業をはじめ、本町の自然環境の保全や再生の活動は、全国的に高い評価を受けており、また、幼児から高齢者まで多様な年代の町民の皆さんに里山づくりへの理解をいただく重要な取組となっております。

今後においても、この活動が継続されるよう町民の皆さんや自然保護団体の皆さんの活動を支援してまいります。

また、道内3拠点で開催される「ふるさといきものの里フォーラム」など、町民の自主的な環境保全・再生に関わる事業への支援を通じて、自然環境に関する意識の向上を図ってまいります。

第4分野
福祉のまちづくりを担う北海道介護福祉学校

本年、開校30年を迎える本校は、これまで2123名の卒業生を輩出し、本町はもとより、道内各地に優秀な人材を送り出し、その実績が高く評価されるなど、介護福祉士養成校として確固たる地位を築いてまいりました。

また、まちづくりの観点からも、本校で学ぶ学生たちは本町に居住し、ボランティア活動や各種行事にも積極的に参加するなど、地域の活性化に大きく寄与

し、町民の皆さんから評価をいただける本町の大きな財産となっております。

一方、国が示す「介護離職ゼロ」に象徴されるように、安心して暮らせる地域社会の実現には、介護人材の育成が急務であります。

現在、全国の介護福祉士養成校に進学する学生は減少しております。本校も例外ではなく、ここ3年間の入学者数は40名前後で推移しており、学校運営に大きな影響を及ぼしております。

国や道は、修学資金制度や給与等の処遇改善など介護人材確保策を打ち出しておりますが、志願者増には未だ結び付いておりません。

時代に即した介護人材の育成と安定した学校運営を行っていくためには、さらなる学生の確保と特色ある学校づくりが重要であります。

そのため、特に重視することを3点申し上げます。

積極的に体験入学を行い、多様な学生の受け入れ体制を強化（介護福祉学校）

1 介護人材確保の仕組みづくり

少子高齢化と介護人材不足は、全国的な課題であり、本校の持つ教育力は、この課題に応え得るものであります。

介護人材を確保するためには、地域人材の福祉分野への進路支援体制が重要であることから、本校の情報収集力と発信力を活かし、道内各地の社会福祉協議会、介護施設、高等学校などと連携しながら、その仕組みづくりを進めてまいります。

2 社会人入学者や外国人留学生などの多様な学生の受け入れ

離職者訓練制度などによる社会人入学者の増加を目指すために、各種制度の周知を図り、社会人の学び直しを積極的に受け入れてまいります。

また、全国の養成校では、外国人留学生の受け入れが進められており、本校も受け入れに向け検討してまいります。

3 今後の介護福祉学校について

本校は、福祉のまちづくりを進める本町のシンボルとして、また、北海道の介護人材確保のリーダーとして大きな役割を果たしております。

今後は、さらに専門職養成機能を有効に活用し、次代を担う小中高生のキャリア教育推進、町内の施設・事業所等を対象にしたスキルアップ研修などにより、本校が持つ教育力と情報力を地域に還元することで、地域に根ざした特色ある学校づくりを進めてまいります。

結びに、平成30年度に向けた教育長並びに教育委員4名の決意の一端を申し述べます。

平成30年は、明治21年に泉麟太郎翁が本町に開拓の鍬を打ち下ろしてから130年の節目の年となります。

私ども5名は、これからも本町の歴史に学びながら、これまでの「行動する教育委員会」の姿勢の下、町民の教育に対する想いをしっかりと受け止め、栗山の将来を担う優しさとたくましさを持った子どもたちの成長と、栗山で暮らす町民の皆さんが心豊かに生涯にわたって学ぶことができる生涯学習社会の実現のため、町民の創意に基づく栗山の教育を推進いたします。

町民の皆さん、議員の皆さん、並びに関係機関・団体の皆さんのご指導とご協力を心からお願い申し上げ、平成30年度の教育行政執行方針といたします。

－平成 30 年度予算の概要－

予算総額

137 億 4,810 万 2 千円

平成 30 年第 1 回栗山町議会定例会で、平成 30 年度予算が可決されました。
町ではこの予算に基づき、まちづくりに関するさまざまな事業に取り組んでいきます。
予算の詳しい内容は、広報 5 月号と一緒に配布予定の平成 30 年度予算説明書でお知らせします。

【平成 30 年度の予算額】

町全体の予算総額は、137 億 4,810 万 2 千円で、前年度と比較し 1 億 2,193 万 6 千円（0.9%）の減となりました。このうち、町の一番大きな会計であり、福祉、教育、産業などの幅広い事業を行う一般会計は、81 億 9,000 万円で、前年度と比較し 1 億 8,700 万円（2.3%）の増となりました。

【一般会計のポイント】

◆主に「街なみ・景観」「児童福祉」「自然環境教育」「観光・交流産業」への事業予算を拡充しました。

◆「街なみ・景観」予算では、新町通りを中心とした市街地地区（中央 1 ～ 3 丁目）の再開発事業開始に伴う事業予算を含め、総額 2 億 2,955 万円（前年比 2,951 万 2 千円増）を計上しました。

◆「児童福祉」予算では、平成 30 年 4 月から開園する栗山めぐみこども園（旧栗山めぐみ幼稚園）を含む保育所などの給付費負担を含め、総額 5 億 5,333 万 5 千円（前年比 4,495 万 4 千円増）を計上しました。

◆「自然環境教育」予算では、「ふるさといきものの里オオムラサキ館（仮称）」（平成 30 年 7 月オープン予定）の事業予算を含め、総額 5,783 万 4 千円（前年比 669 万 2 千円増）を計上しました。

◆「観光・交流産業」予算では、訴求力に優れた情報発信媒体の作成、町の魅力を発信する人材の育成・創出を図る事業など若者シティプロモーション推進事業予算を含め、総額 5,747 万 4 千円（前年比 1,984 万 6 千円増）を計上しました。

【問い合わせ】

町経営企画課行政経営グループ
☎ 73-7503

＜各会計予算の概要＞

区分		平成 30 年度（千円）	平成 29 年度（千円）	増減額（千円）	対前年比（%）
一般会計		8,190,000	8,003,000	187,000	2.3
特別会計	国民健康保険特別会計	1,645,530	2,004,710	△ 359,180	△ 17.9
	北海道介護福祉学校特別会計	122,000	114,270	7,730	6.8
	介護保険特別会計	1,400,290	1,373,800	26,490	1.9
	後期高齢者医療特別会計	215,010	202,860	12,150	6.0
	住宅団地造成事業特別会計	29,370	40,000	△ 10,630	△ 26.6
	工業団地造成事業特別会計	22,320	20,080	2,240	11.2
企業会計	水道事業会計	830,324	827,620	2,704	0.3
	下水道事業会計	1,293,258	1,283,698	9,560	0.7
合計		13,748,102	13,870,038	△ 121,936	△ 0.9